



シンボル・マーク

子と親・幼稚園が  
ともに手を取りあっ  
て未来への飛躍を願  
うもので、親と幼稚  
園が子どもを育む姿  
を岩手の「い」に象  
徴している。

# 広報岩私幼連

(頭字は工藤巖元岩手県知事)

VOL

110



～ジャンボかるたとり～  
「やったあ、とったよー！」

# 無償化実施に伴う質向上の取り組みと課題について

## ～今こそ本県の幼稚園職員給与改善がカギ～



(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会  
会長 坂本 洋

子ども・子育て支援新制度が施行され5年目を迎えました。また本年10月からは念願の保護者負担保育利用料が国費財源で賄われる無償化が実施されることになり、幼児教育・保育、子育て支援事業の役割が一層充実する環境が整ってまいりました。以前の会報でも幼児教育の質向上の本質とそれを支える人材確保の課題を取り上げましたが、改めそれを支える法人ガバナンスの強化を含め情況につき考えてみたいと思います。

### 1、幼児教育の質の向上とそれを支える人材確保の流れ

幼稚園教育要領や保育所保育指針の改正が進み、幼児教育・保育の事業内容のほぼ一体化、共通化を図っていると考えられます。従って、幼稚園、保育所、認定こども園それぞれにおいて、満三歳以上児の午前中4時間は、幼児期における学校教育の充実であり、幼稚園教育要領の5領域が質向上の対象です。更には、幼児教育において育成すべき資質や能力の土台を3つの柱、①個別の知識や技能の基礎、

②思考力、判断力、表現力等の基礎、③学びに向かう力、人間性等に構築され、加えて幼児期の終わりまで育ってほしい具体的10の姿が提示されて、小学校以上の教育に接続するものになっており、要領の充実実施が重要課題となっております。

さて現状、幼児教育の質の向上を維持し、併せてそれを推進する専門性を備えた人材が十分に確保されているかが問われます。具体的には、在職する職員の更なる専門性研修の場と時間の確保と、新任教諭の人材確保です。特に岩手県内では、新制度後は必要な人材需要を満たせない、応募しても人材枯渇となり手不足という状態です。新卒者は卒業時には初志と違い、給与水準が低い、業務の専門性が大変である等の理由で、一般企業への就職や給与手当の良い都会志向が強く地元に残らない実態があります。

従って、喫緊課題は他企業に比較し低い給与の改善が必須であり、本県の経営実態調査から給与水準改善の必要が明らかになり(下記資料)、各法人施設が職員給与改善のため保育料の値上げや必要経費の上積徴収等の理由説明をしっかりと保護者の理解を得て対応を努力しなければならないことが指摘されております。なお国の政策的な施設への職員処遇改善加算等が遅まきながら予算化されるようになり前進の兆しはあります。

### 2、法人のガバナンス強化についての課題

幼児教育専門性の質向上のための人

材確保課題に続き、改めて法人のガバナンス強化が話題となっております。従来より法人事業は、法令順守、適正、公平公明なものであり事業内容は公開されることが原則です。しかし上記のような職員の適正給与を維持できない環境では、最低基準以上の職員配置もできず、残業が常態化か、もしくは規制緩和に寄り掛り適正でない状況が散見されるとすれば問題です。結果当然のように質向上は低下し事業内容公開も避けてガバナンスの低下が問題視されることとなります。この度、無償化実施で財政的に国税投入となり以前よりも行政機関の事業内容チェックが厳しくなり、法人ガバナンスの弱い施設は要改善指摘も多くあるのではないかと危惧されております。

一法人一施設が多い幼児教育法人の在り方は、従来より私学としての事業推進の自主性と公共性の充実及びマネジメント力やガバナンスの強化が言われて対応しておりますが、無償化実施に伴ってその充実、現実化がより加速されるものと思われま

人間の一生涯において、幼児期は人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。そのために、それを支え育み保障する幼児教育事業の重要性は、世界先進各国の共通の認識です。関わる教職員の専門性向上や人材育成、確保は重要であり、施設法人の適正労務や法令順守に基づく管理体制の充実強化が叫ばれる所以です。

私学助成園・教員初任給与比較(全日私幼連30年度経営実態調査から)

項	2種免許・初任給 (円)				1種免許・初任給 (円)			
	月額給与	本俸	手当	期末手当	月額給与	本俸	手当	期末手当
全国平均	180,959	168,366	12,594	498,122	189,762	176,607	13,165	532,404
東北6県	157,473	149,647	7,826	400,128	165,467	157,364	8,103	435,431
岩手平均	161,066	152,522	8,544	390,430	167,160	158,579	8,581	413,646

本県の場合、1種、2種とも全国平均額と約2万円の差があり要改善。

## ◎市町村からの補助状況

市町村名	保護者が受け取るもの（年又は月額・円）	幼稚園が受け取るもの（年又は月額・円）
盛岡市		盛岡市私立学校振興補助金 ①人数割額 園児1人につき 1,000 ②学校割額 1園につき 219,000
宮古市	幼稚園就園奨励費補助金（市単独補助分） （H29実績） 1,914,400 内、台風10号による被災者対応分 504,400 保育所保育料との格差是正のため、幼稚園就園奨励費補助金（国庫補助分）に上乗せ補助（所得の階層や入園料の支払いの有無に応じ、保育所保育料との差額を上乗せ） 私立幼稚園預かり保育料軽減支援事業費補助金 （H29実績） 5,052,200 （認定子ども園への補助額も含む。） 保護者の就労等の形態に応じ、1日100円～300円の補助。（幼稚園が預かり保育料を軽減し、軽減分を市が幼稚園に交付）	私立幼稚園教育振興事業費補助金 （H29実績） 2,809,380 （認定子ども園への補助額も含む。） 職員の研修、備品の購入など資質の向上や環境の改善を目的に、教職員数・園児数をもとに補助 均等割1園 250,000 教職員数割1人 10,000 学級数割1学級 10,000 園児数割1人 1,330
大船渡市	私立幼稚園教育支援補助金（対象者13名） （H29実績） 458,150 〔内訳〕 ・第3子以降保育料、給食費を無料 5名 386,320 ・同時入園の2人目 保育料、給食費を半額 7名 71,830	私立幼稚園運営事業補助金 （H29実績） 401,000 各月初日の在籍幼児数の合計×500円
花巻市	特定施設2歳児就園支援費補助金 （市単独補助） 満3歳未満（2歳児）について、就園奨励費の国交付基準と同様に補助 （H29実績：70名） 4,568,500 第3子以降保育料等負担軽減補助金 （市単独補助） 子育てに係る経済的負担を軽減するため、保育料等納付額から就園奨励費補助金を控除した額の全額又は1/2を補助 （H29実績：49名） 2,012,300	私立幼稚園運営事業補助金（7園） （H29実績） 7,000,000 〔内訳〕 経常経費割 5,600,000 納付金割 1,400,000 私立幼稚園預かり保育事業補助金（6園） 県の同種補助金（平成20年度までの算定方法）の1/2の額 （H29実績） 6,150,000
北上市		私立幼稚園運営費補助金 （1学級） 3,408,000 （園児1人） 50,000 2,000
一関市		私立学校運営費補助金（2園） （H29実績） 2,769,000 基本額 2,215,000 園児割 332,000 障がい児割 111,000 教員割 83,000 施設割 28,000 私立幼稚園第3子以降保育料等補助金（2園） （H29実績） 2,905,700 第3子以降の入園者の入園料及び保育料の減免相当額を補助（就園奨励費を除いた額）
釜石市	実費徴収に係る補足給付を行う事業 生活保護を受給している世帯を対象に、特定教育・保育施設に対して保護者が支払うべき日用品、文房具その他の教育・保育に必要な物品の購入に要する費用または行事への参加に要する費用等を助成。 金額は入所している施設・園児の年齢によって異なる。	私立特定教育・保育施設等振興事業補助金 (1)園児1人 3,000 (2)重度障がい児1人あたり 月額 74,140円まで（県補助額を除いた額） (3)軽度障がい児1人あたり 月額 30,000円まで （県補助額を除いた額）
八幡平市	保育料助成 （第3子以降保育料無償制度） （H29実績）9名 861,300 （保育料には、入園料、検定料、施設整備費、給食費を含む）	運営費補助金 基本額 月額1人 650 歯科検診事業分 1園 108,000 園児1人 360
奥州市		学校法人運営費補助金 H29実績 3,316,000 均等割 70% 2,321,200 園児数割 30% 994,800 ○1園あたり 257,900 (2,321,200円÷9園) ○園児1人あたり 約2,125 (994,800円÷468人) H30廃止
滝沢市		私立幼稚園預かり保育推進事業補助金 年間を通じ預かり保育を実施している幼稚園で、1日の平均預かり保育時間により交付 2時間を超え4時間以下 800,000 4時間を超え5時間以下 960,000 5時間を超え6時間以下 1,120,000 6時間を超え7時間以下 1,280,000 7時間を超える場合 1,440,000
二戸市		民間保育施設連絡協議会補助金（私幼団体） 民間保育施設設置者で構成される協議会に子育て支援事業の充実を目的として補助 H30廃止 300,000
雫石町		私立幼稚園運営費補助金 〔園児1人〕 408,000 12,000
岩手町		運営費補助金 40人まで 350,000
大槌町	私立幼稚園就園奨励費補助金（町単独） 第2子以降保育料無料化 （H29実績）25名 1,185,000 （H30見込）9名 439,700	私立幼稚園事業補助金 均等割 1園 100,000 園児数割 1人 約2,400 （H30見込） 120,000
山田町		私立幼稚園振興費補助金 454,000

# 平成30年度総合研修会

平成31年1月10日・11日の2日間にわたり、花巻温泉ホテル千秋閣に於いて開催されました。参加園は72園で参加者は初日413名、二日目200名を数え、全体会のほか経営セミナーと教員研修の分科会に分かれて開催されました。



## 講演 『子どもたちの今と未来の幸せを願って』 ～一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～

講師 (公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長  
美晴幼稚園 園長 東 重満 先生



テーマが30、31年度の教研課題ということもあり、10年前に教教研修委員をなさっていた頃のお話や、免許更新制は

現場の子どもたちのために、保育者自身の質の向上のためにも必要であること。また、幼児教育無償化が始まるにあたり、保育の実践の質の向上が今まで以上に強く求められてくるのではないかと、現場の視点から伺うことができました。

### ◎保育者が学び続ける意味は

保育者は子どもの命と向き合う仕事である。

子どもは未来に向かって生きている。子どもたちが今を充実して輝いて生きるために保育者は絶えず学び続けていかなければならない。「学ばない医者と教師にはみてもらうな」という言葉がある。保育者も自ら学び続けるプロでなければならない。例えば、重大事故3大要因を知らない人はプロではない。3歳～6歳の子どもは奇跡の世代と言われて事故が少ないが、0歳～3歳までは死亡事故につながる事がある。今は子ども園も多く低年齢化しているので、きちんと知っていなければならないことだ。

### ◎幼稚園教諭の役割りと専門性

4つの役割り→子どもの良き理解

者、援助者、共同作業、良きモデル。

4つの専門性→知識、技能、使命感(倫理観)、判断力。

プロの道は専門性の高いものだと思う。現場にいて子どもと喜びを共有したり、子どもの家族の心の痛みを分かち合うなどの経験を重ねていくことが大切。

専門家であり続ける唯一の道は、感性を研ぎ澄まし続けること、学び続けることである。園内研修を通して課題の共有化を図り、園外研修で得た知識を共有するなどしていく。

### ◎幼児教育の今日的課題

2005年以降、近年の子どもの育ちがおかしいと思われてきた。具体的には学びに対する意欲、関心の低下。自分の意見をはっきり述べない、述べられないことが目立つ。

幼児にとって「遊び」は重要な学びである。環境を通して行う教育が基本でありその中で、「幼児の主体性」と「保育者の意図」をバランス良くからませることが発達につながっていく。遊びこそが子ども達にとって学びであり、一人ひとりの発達に則していかなければならない。

### ◎幼児教育は発達支援

新教育要領に10の姿があるが、あれは願いであり目指していく目標である。そこに向けて我々は環境を作り主体的に働きかけていくが、正解がないものを伝えていくことは、力量を求められる。保育の中で持続可

能な民主主義の実現として子どもを子ども扱いせず一人の市民として扱う。100年生きる子ども達の今と未来の幸せを願い、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動ができる力を身につけることができるように支援していかなければならない。また、障がい、多文化多言語など全ての子ども達を置き去りにしてはいけない。

### ◎保育は正解のないあそびと学び

一園一園の条件は様々だが、その環境の中で自分の園の守るべきものを大切に、資源と条件をかけ算して豊かなあそびを作っていくこと。豊かな遊びを通して子ども達はすこやかに育つ。マニュアルでは決して保育は豊かにならない。

これから大きな転換期を迎える私達ですが、動じることなく今までのようにしっかりとたゆまなく学び続けていく事が、子ども達の未来を支えることになるとお話しになりました。



## 講演『平成31年度政府予算(案)における幼児教育振興施策』

講師 全日本私立幼稚園連合会 専務理事 岩田 知也 先生



1月10日、「全日本私立幼稚園連合会専務理事」の岩田知也様をお迎えして、「平成31年度政府予算(案)

における幼児教育振興施策』についてご講演いただきました。

来年度10月1日からの実施が予定されている「幼児教育の無償化」を前に、閣議決定された方針を踏まえ制度設計、法制化に向け現在検討が進められている中から「幼稚園の預かり保育利用料の無償化」や「食材費の見直し」等、具体的な内容について説明があり、併せて実施後の様々なシミュレーションから、今後の各園並びに連合会としての課題についても言及さ

れました。

今般の無償化により、子供たちに質の高い教育が保障され、地域における子育て支援が一層充実されるよう、積極的に新制度の理解、並びに活用について思索し勤しんでまいります。今回も昨年に引き続き岩田専務理事の講演を拝聴し、気持ちを新たにさせられる機となりました。

## 講演『経営実態調査から見た本県私立幼稚園の現状』

講師 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 会長 坂本 洋



経営セミナー初日の二コマ目に当連合会坂本会長による私立幼稚園の現状と経営実態から見た今後の課題に

ついて講演がなされた。その中で、認定こども園への移行がここ3年間で急速に進んできており、未移行園に

関しても全日幼の調査では、今後移行を検討している園が85%にも上がっていることが報告された。本県では、新制度移行園が55%と半数を超えており今後新制度への移行が進むと考えられる。

また、今年10月からの無償化の実施により、保護者のニーズの変化に伴う施設間の競争の激変や職員の人材確保が一層困難になることが予想され、給与の基本給改善が急務であ

るとのべられた。給与面だけではなく、マネージメント及び組織力の向上や法令遵守等のカバランスの強化が求められ、新制度5年後の公定価格見直しを視野に入れた経営課題に取り組むことが大切であると指摘された。特に収支差額に関しては、保育所経営並みの5%目途に近づける努力が必要であると言及された。

## 講演『絵本の良さ、読み聞かせについて』

講師 盛岡大学短期大学部 名誉教授 松里 雪子 先生



絵本は“絵とことば”で出来ています。

ことばは日常に使っていますが、意思、感情、思考、言葉あそびなどを伝えるのに使われます。話しのテー

マを伝える時、組み立てから考えますが、日本のスタイルはくどくど言って、最後に言いたかったことを持ってきます。

欧米のスタイルは逆に結論を出してから説明となります。絵本は文章にできないものを絵で表現しています。絵と文章のかけ引きなどもあり、文章も絵も真剣に取り組む絵本が出来て

います。また、話すということは相手の心と頭脳に声で書くことで、朗読は読む人と聞く人の想像を結ぶものです。絵本の読み聞かせをする時に、①抑揚、②声の高さ、③ゆっくり、④間を空ける、この4つのポイントを大切にしてください。

## 講演 『自然体験・自然遊びについて』

講師 修紅短期大学 助教 後藤 みな 先生



内閣府2014年版、こども若者白書による統計から、20代のアンケートで“うまくいくかどうかかわからない事についても意欲的に取り組む”という事について先進国の中で日本が一番低いという事に危機感を覚え

る。これから育つこども達が、予想できない事が起こりうる時代を生き抜いていけるかという事を考えなければならない。その為の手立てのひとつとして十分な自然体験、自然遊びを教師は意図的に取り組む必要がある。幼児教育施設における自然との関わりの現状は減ってきている。こどもは自然を直接体験する時、肌・目・耳・口・鼻で感じ、この感覚器官を使う事で実感、意味を伴ない、

多様性を感じ考える事につながる。ドイツ・アメリカの事例を基に、環境が伴わない園でも、教師が意図的に自然に触れ考える事ができるよう準備し、こどもと信頼関係を築き距離感を近くして活動を展開し、これからの時代を生き抜けるこどもを育てよう。

## 講演 『人材確保と働きやすい環境づくり』

講師 ㈱ゆびすいコンサルティング 中小企業診断士 岸田 成弘 先生



2日目の1コマ目は、㈱ゆびすいコンサルティングの岸田成弘先生によるマネジメントに関する講演があった。冒頭幼稚園の多くの悩みは、人材育成と採用であり、問題の

解決には、経営者側の工夫と努力が必要であり、いかに働きやすい環境整備をしていくかが重要であるとのべられた。採用に関しては、既に求人サイトでは人が集まりにくくなっており、SNS等の普及により低コストで人材を募集する方法を構築する必要があり、「誰でも」ではなく、どういう人材を求めているのかを明確にした相関性が重要であると

指摘された。働きやすい職場づくりでは「残業を減らす」のではなく、職員との意見交換をしながら「残業ゼロ」を目指して取り組むことが重要であり、併せて人事評価制度を導入して昇給や昇格の根拠となる指標を構築して、自園にとって必要な人材像を明確に提示していくことが、職員全体のレベル向上に重要であるとのべられた。

## 講演 『幼児教育の無償化を前に、今後の在り方を考える』

全日本私立幼稚園連合会政策委員長 認定こども園日詰幼稚園 園長 水谷 豊三 先生



全日本私立幼稚園連合会政策委員長の水谷豊三先生より、幼児教育の無償化に向けた留意点について講演がなされた。幼児教育の無償化の主旨は、3歳から5歳までの幼児教育の保護者負担軽減を図る少子化対

策のために支払われる資金であり、施設の経営に資するために支払われるものではないことを指摘されました。新制度の対象とならない幼稚園については、月額上限2.57万円が無償化となるが、それに伴う便乗値上げは認められていないので十分注意が必要である。また、給食費を保育料に含めている場合は、保育料から差し引く必要があり、給食費は保護者負担としなければならない。更

に2号認定相当児の預かり保育料も月額1.13万円までの範囲で無償化になるが、保育の必要認定が法制化されることが考えられるので注意が必要である。特に取り組む必要がある事項として収支差率を6.1%以内に押さえるように努力して欲しいと述べられ、最後に政治に関心を持ってもらいたいと述べ講演を締めくくられた。

## 地区会だより

### 県北 「雪遊びをいっぱいしたいなー」

小正月を過ぎても積雪のない県北地方、ここ数年ではとても珍しい景色です。こども園の雪べらタンやそりサン達はこどもと一緒に早く遊びたいと出番を待ってイライラしています。

こども園に移行して4年を過ぎて、保育の研究にも変化が出てきました。岩私幼連の夏研修および1月の総合研修会、県教育委員会、その他関連した研修会を選び教員研修の機会を見つけて、こども園に大事な保育とは、先生も忙しい毎日の仕事を調整しながら参加し、新しい幼児教育・保育の勉強に真剣に取り組んでいます。

幼稚園時代と違い、こども達の生活もかわってきました。久慈市、二戸市とも県北地区は幼保連携型こども園に移行し、家庭環境も幅広くなり、毎日園で過ごす時間が長くなってきました。

全県的な人口減少の中で、特に県北地方は急激な流れにあり、ますます厳しくなる環境を乗り越えていく幼保連携こども園の在り方を考えています。

(まつまるこども園 園長 國分一彦)



雪が少なく室内遊びの子ども達

### 盛岡 「さらなる資質向上を目指して」



出発進行!!

盛岡地区研修会は、全日私研究機構 平成30・31年度の教育研究主題「子ども達の今と未来の幸せを願って」～一人一人に豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～に基づき、今年度から新設された「3歳未満児の生活と保育環境」を加えて7班に分かれ、共に学びあい研修を重ねてきました。

今年度の大きな変化としては、地区研の例会が10月からキャリアアップ研修の対象となったことです。その準備として各班から、運営責任者・メインコーディネーターを選出し、運営責任者は研修受講者名簿を作成し、岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会会長に申請する。など今までになかった作業が必要になり、慣れないことで戸惑うことも多かったと思います。しかし「地区研をキャリアアップ研修の対象にしたい」と以前からお話ししていた県連会長の坂本洋先生を始め関係各位の先生方のおかげで実現したことと思いますので、そのご苦勞に感謝すると共に今後、更なる資質向上を目指して研鑽していきたいと思ひます。

(スコーレ幼稚園 主任 福士 泉)

### 中部 「更なる質の向上を目指して」

北上地区は今年度「保育士等キャリアアップ研修」の指定を受け、年間で3回の限られた時間の中、ひとつひとつのテーマにじっくり取り組みながら行いました。初めは東和微生物検査所の前川晶氏をお招きし「園内における感染症ガイドライン」について学びました。2回目は北上地区の消防署員の方々に「救命救急と通報講座」を実践を交えながら学びました。年度末にはジャーナリストの猪熊弘子氏をお招きし「死を招いた保育」が教えてくれたこと」と題し講演を行う予定です。

私達は大切な命をお預かりして日々の保育に励んでいます。研修のテーマは『命』に直結する内容で学ぶことの多い研修でした。研修を通して先生方自身の保育を振り返り、学びあう仲間とともにより一層幼児教育の質の向上を目指して参りたいと思ひます。

(いわさき認定こども園 主幹保育教諭 及川淳子)



早速実践してみました!



## 県南 「東北地区教員研修大会を終えて」



秋のおさんぽ「イチヨウのじゅうたんきいだね。」

昨年10月に東北地区教員研修大会が県南地区を会場に開催されました。各県、各地区から多くの先生方のご参加をいただき、盛会に終えることができましたことに感謝致します。

研修大会を通して、テーマについて共通理解をし、一つの目標に向かって意見を出し合いながら協力して取り組み、保育者同士が学び合うなど、園内研修を積み重ねることで、職員間の学びの意識が高まったと感じています。

奥州支部では、研修大会を振り返り、協議の際に参加された先生方に書いていただいた付箋や、助言者の先生の話をもとに、今までの保育の改善点や今後の課題などを話し合い、テーマについてさらに研修を深めているところです。

あと数か月で年長児は幼稚園から巣立ち、年中児・年少児は進級します。子ども達が自信に満ち溢れた笑顔で卒園・進級する為、これからも保育者一人ひとりが東北地区教員研修大会で学んだことを生かし、研鑽を積み、子どもに寄り添った保育をしていきたいと思ひます。(姉体幼稚園 主幹教諭 佐藤順子)

## 沿岸 「地域の人たちとの交流」

12月14日に地域の人たちに年長児手作りの招待状を先生と一緒に届けて、園行事であるお楽しみ会を行いました。参加してくれた八名の方々はとても喜び、子どもたちも嬉しさいっぱいでした。内容は、おゆうぎ会でのおゆうぎを披露したり、ダンスを踊ったり楽しく過ごしました。

「私たちもこんなころがあったのかなあ。」

「どの子どもも可愛くて。可愛くて・・・」

「ほんとうに元気をもらいました。」等々

最後には、両側に並んだ子どもたちの一人一人と握手し、頭をなでたりしながらお別れしていきました。

以前にも七夕集いに地域の方々を招き、心の温まるふれあいとなりましたが、地域の人と交わることは、お互いにとって大きな心の糧となることを実感しました。今後、交流の手立てと内容等は、まだまだ工夫が必要ですが、さらに深めていければと思っています。(認定こども園 正福寺幼稚園 園長 菊池 久)



地域の方々といっしょに

## 第34回岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会 教員研修大会(遠野大会)《ご案内》

大会主題	「子どもたちの今と未来の幸せを願って」 ～一人一人の豊かな育ちを支える 質の高い幼児教育を～	・発表者 認定こども園 常盤幼稚園 保育教諭 小松代遥奈 (県南地区)	・発表者 ふたば認定こども園双葉幼稚園 保育教諭 河野 真季 (中部地区)
期 日	平成31年3月26日 (火)	・助言者 盛岡大学短期大学部幼児教育科 准教授 岩崎 基次 先生	・助言者 盛岡大学文学部児童教育学科 准教授 石川 悟司 先生
会 場	あえりあ遠野 遠野市新町1番10号 TEL 0198-60-1700	【第2分科会】	【第3分科会】
記念講演	演 題 「21世紀型の保育・ 幼児教育をめざして」	◆発表テーマ 「遊びの意味と育ちへのつながり ～その子の立場にたって～」	◆発表テーマ 「幼児期の終わりまでに育ってほ しい姿を踏まえた保育実践」
講 師	東京大学名誉教授 汐見 稔幸 先生	・発表者 なでしここども園 保育教諭 及川 尚子 (盛岡地区)	・発表者 認定こども園 みどり幼稚園 保育教諭 久保麻衣子 (沿岸地区)
		・助言者 盛岡大学文学部児童教育学科 准教授 石川 悟司 先生	・助言者 岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事 吉田 澄江 先生
		◆発表テーマ 「自然」にかかわる子どもの心の 育ち	
	【第1分科会】 ◆発表テーマ 「人と関わる力を養う」		

### ●編集後記

新しい年となりました。元号も変わり、幼児教育無償化など大きな流れが予測される中で年度のまとめの時期を迎えられている事と思います。また、今年度は新幼稚園教育要領が施行され、それぞれの園で保育の見直しや資質向上にむけて研鑽な

された一年だったのではないでしょうか。

子ども達をとりまく環境が様々な変化していく中、一人ひとりが自分の人生を生き生きと精一杯生きていく力を身につけていくために、私達が幼児教育を通して出来る事は、何

を大切にし何を育てていかなければならないかをしっかりと見据え考えていく努力を続けていくことではないかと思ひます。

(政策委員 加藤敏子)